

SPSS Ver26 コミュータライセンス手順 (Mac)

1. 初期設定 (学外利用の最大可能日数の変更)

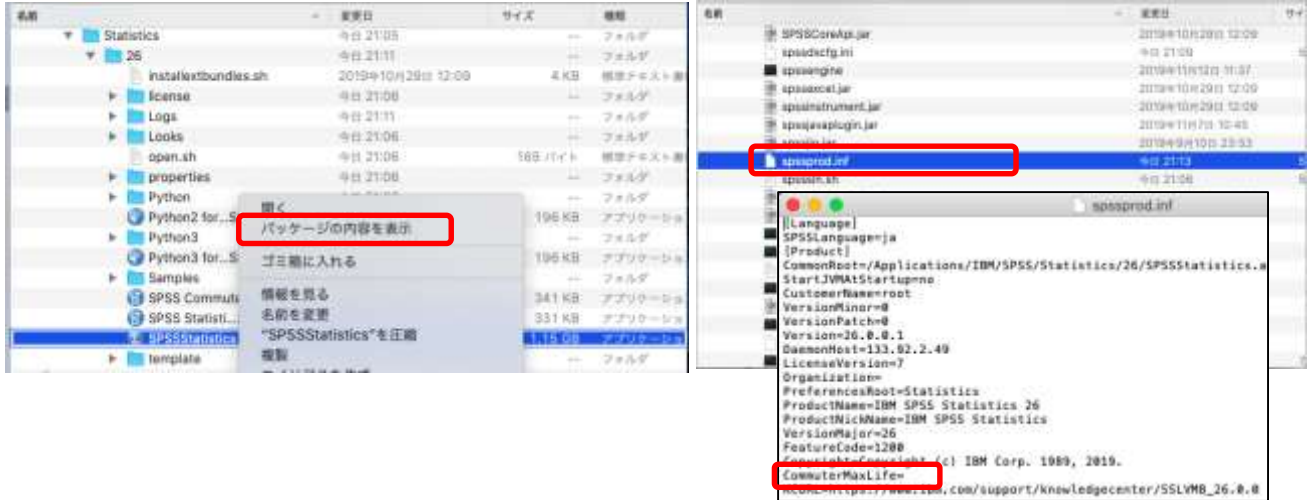
学外利用時の最大可能日数を予め既定値の7日から30日に変更しておく

- ①アプリケーションの「IBM」－「SPSS」－「Statistics」－「26」のSPSSStatisticsをcontrolを押しながらクリックし「パッケージの内容を表示」を選択
- ②「Contents」－「bin」でspssprod.infファイルをテキストエディットで開く
- ③CommuterMaxLifeの値を30にして保存

【注意】・最大可能日数の変更は一度行くと30日で保持される

・30日を超える設定は無効

・spssprod.infの他の設定は変更しないこと



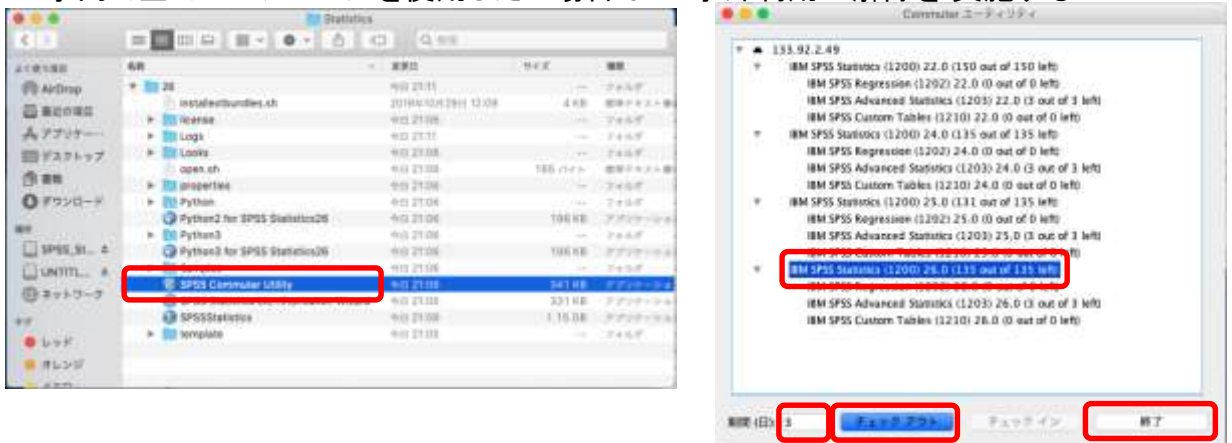
2. 学外利用手続き

PCが学内ネットワークに接続された状態で行う

- ①アプリケーションの「IBM」－「SPSS」－「Statistics」－「26」のSPSS Commuter Utilityを起動
- ②「IBM SPSS Statistics 26.0」モジュールを選択して (学外利用) 期間 (1～30日) を入力後「チェックアウト」を選択、期間の初期値は3日で利用期間に応じ最大30日まで変更可能
学外利用が可能になると赤いチェックマークが付くので「終了」を選択
- ③「Advanced Statistics」モジュールを学外利用する場合は同様に行う
学外利用数が上限に達するとエラーコード771になり学外利用手続きはできない

【注意】学外利用手続き後は学内で利用する場合も利用できるモジュールが学外利用手続きの範囲に制限される

学内で全てのモジュールを使用したい場合は3. 学外利用の解除を 実施する



3. 学外利用の解除

学外利用期間内に利用が終了した場合はPCを学内ネットワークに接続し

「チェックイン」を行うことで学外利用が解除される

学外利用期間が過ぎた場合は自動的に解除されるため操作は不要

- ①アプリケーションの「IBM」－「SPSS」－「Statistics」－「26」のSPSS Commuter Utilityを起動
- ②「IBM SPSS Statistics 26.0」モジュールを選択して「チェックイン」を選択
赤いチェックマークが消えたのを確認し「終了」を選択
- ③「Advanced Statistics」モジュールを学外利用していた場合は同様に行う

